

24時間降水量・全国最多

新潟・福島豪雨



▶土砂に埋もれた民家と自動車(熊倉地区)

かつてない豪雨が7月29日、只見町を襲い、想像を絶する被害を町全域にもたらしました。

30日の午前9時現在、当町での24時間降水量の最大値が523・5ミリを記録、この数値は観測史上最大で、全国でも最多の降水量となりました。この豪雨により、町内を流れる只見川、伊南川、黒谷川などをはじめとするすべての川や沢の水位は異常に上昇、濁流となり町内各地に経験したことのない最大級の爪痕を残しました。

災害対策本部設置

同日の午後5時に災害対策本部を設置、午後5時30分に町内全1960世帯、4990人に避難勧告を出しました。その後も大雨は降り続き、町民の方は、只見小学校の体育館や朝日地区センター、各地区の集会所などに避難しました。午後6時には、自衛隊に派遣要請を行い緊急時の体制を整えました。

迅速な水防活動

水防本部が同日の正午に設置され、町内の消防団員による迅速な水防活動が行われました。

刻一刻と川の水かさが増すなか、土のうを積み、浸水しそうな民家の水をポンプで吐き出し、避難誘導を行うなど、被害を最小限に抑えようと懸命な活動に当たりました。

甚大な被害

この豪雨で、一部の家屋が

流されたり、土砂で埋まったりしたほか、家屋の全部や一階部分が完全に浸水してしまふなどの被害を受けました。また、町内の至る所で道路が濁流にえぐり取られたり、橋が落ちたり傾いたりして、通行不能になりました。鉄道のJR只見線も会津宮下から小出駅間で上下線ともストップしています。

さらに、農作物や農地、農業用施設などにも大きな被害が出ています。現在調査中です。このような被害に遭われ、避難をされている方も100名以上おられます。(8月6日現在)

水道や電気、電話などのライフラインも使用できない地区がまだあり、給水車で水を運んだり、衛星電話を配置するなどの対応を取っています。過去に例のない甚大な豪雨災害を受けた只見町ですが、毎日、全力で復旧作業を行っています。町民の皆さん、一致団結、力を合わせて頑張ります。被災された皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。

町民の皆様へ

只見町長 目黒 吉久

このたびの新潟・福島豪雨は只見町に甚大な被害をもたらしました。被害を受けられた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

当町では国・県道を始め家屋や農地、店舗等について全町にわたり大きな被害が生じましたが、こうした中で人的被害が少なかったことは、消防団の働きや地元の方々の適切な判断・防災意識の高さ、さらには人命救助を最優先に、自衛隊・県警察・広域消防・地元消防団の迅速な救助・救出作業のおかげであります。

また、今回大きな被害のあった道路につきましても、最大160名に及ぶ避難所の方々が一日でも早く自宅に帰れるよう、仮復旧に関係機関をはじめ事業者の方々に全力を注いでいただき、孤立した八木沢から塩沢までは、車で通行可能となり、入叶津・中ノ平、黒谷入にも通行できるよう対処しております。

さらに、今回特にありがたかったことは、ボランティアセンターが設置され、町内ばかりではなく町外、県外からも多くのボランティアの方々に来ていただき、家屋内の土砂の撤去を行っていただいております。また、近隣町村消防団の応援、交流都市の柏市からの職員の派遣、県内市町村や諸団体からの物資等の支援もいただいております。心から感謝申し上げますとともに町民の皆様へ報告させていただきます。

さて、今後の災害復旧、生活支援への対応につきましても、まずもって避難されている方々が、一刻も早く自宅に帰ることができるよう支援体制の確保と強化を図るとともに、住宅整備・確保に時間を要する方に対しては仮設住宅や二次避難等を通して対応してまいりたいと考えております。

また、道路や河川の本復旧までの間、二次災害の心配のないよう安全対策については、町としても取り組むとともに、それぞれの管理者へも求めてまいります。本復旧に際しては二度とこうした災害が起こらないよう、今回の災害の事実を直視し、将来に渡って安全・安心を確保するため、近隣町村とも協議し、その内容を強力に国・県等に要望してまいります。

お盆の季節、子供や孫が来ることを楽しみに待っている中で被災された皆さんは大変な苦痛と不安の中での生活を送られていると思いますが、どうかくじけないでください。農業者、商業者の皆さんも大きな痛手を受けましたが、先人達も幾多の苦難を乗り越え今日があるのですから、どうか希望を失わないでください。

町といたしましても議会とともに精一杯の支援に取り組み、町民の皆さんと心をつなげて前に進んでまいり所存であります。

8月7日、記

なぜ豪雨に？

上空の 低温大気流入が原因

日本海から東北にかけて前線が停滞し、暖かくしめった空気が大量に流れ込んで、積乱雲が発生、同時に上空約6000m付近で日本海側から入り込んだ乾いた大気が周囲より3度も低く、低温だったため、この不安定な状態が3日間続き、今回の豪雨となりました。このときの上空の温度はマイナス6度でした。



▲濁流をくい止めようと土のうを設置する町民(福井地区)

被害状況速報

(4) 農業等被害

- ・農作物
 - 水田冠水等 101.36 ha
 - 水田転作冠水等 9.91 ha
 - 花卉冠水等 2.30 ha
- ・農地等 37.20 ha
- ・農業施設等 38箇所
(福井ため池、岩下堰(黒谷)、袋堰(黒谷入)、排水ポンプ(新町) 外)



▲流失した水田(八木沢地区)

3 避難者の状況

(1) 避難所の状況

地区名	朝日地区センター	只見小学校	叶津番所	合計
塩 沢		0 名		0 名
		0 世帯		0 世帯
蒲 生		0 名		0 名
		0 世帯		0 世帯
八 木 沢		17 名		17 名
		10 世帯		10 世帯
叶 津			2 名	2 名
			1 世帯	1 世帯
入 叶 津		19 名	6 名	25 名
		9 世帯	3 世帯	12 世帯
大字只見		34 名		34 名
		19 世帯		19 世帯
内 沖		25 名		25 名
		14 世帯		14 世帯
上 町		1 名		1 名
		1 世帯		1 世帯
新 町		1 名		1 名
		1 世帯		1 世帯
田 中		7 名		7 名
		3 世帯		3 世帯
黒 谷 入	53 名	0 名		53 名
	30 世帯	0 世帯		30 世帯
合 計	53 名	70 名	8 名	131 名
	30 世帯	38 世帯	4 世帯	72 世帯

(2) 福祉避難所の状況

- ・只見ホーム 2名1世帯 (入叶津 2名1世帯)
- ・朝日診療所(入院) 4名3世帯 (蒲生 3名2世帯、田中 1名1世帯)
- ・和の里 1名1世帯 (蒲生 1名1世帯)
- ・こぶし苑 3名3世帯 (塩沢 1名1世帯、蒲生 2名2世帯)
- ・保健福祉センター 2名1世帯 (八木沢 2名1世帯)

平成23年7月新潟・福島豪雨による

1 概況

平成23年8月7日(日) 16:00 現在
只見町災害対策本部

7月28日	7:33	大雨警報発表
	14:47	洪水警報発表
7月29日	12:00	水防本部設置
	17:00	災害対策本部設置
	17:30	全世帯避難勧告
	18:00	自衛隊への派遣要請 (町から県へ)
8月2日	8:30	自衛隊撤収
	9:00	全世帯避難勧告解除
8月3日	13:00	自衛隊への派遣要請 (町から県へ)



▲毎日開かれる本部会議

2 被害の状況

(1) 人的被害

- ・行方不明者1名

(2) 建物被害

住居関連

- ・床下浸水 250棟 (250世帯 600人)
- ・床上浸水 100棟 (125世帯 317人)
- ・家屋流失 (流失による一部壊含む)
 - 住宅 4棟 (叶津3、八木沢1)
 - 非住宅 6棟 (叶津3、中ノ平3)
- ・家屋土砂埋没等
 - 住宅 3棟 (熊倉2、二軒在家1)
 - 空家 1棟 (熊倉1)
 - その他店舗等 41棟 (黒谷4、館ノ川1、只見30、叶津1、八木沢1、榎戸3、福井1)



▲消防団らによる捜索活動

(3) 道路等状況

- ・落橋 3橋 (小川橋(小川)、峰沢橋(黒谷入)、万代橋(宮沢))
- ・通行不能橋 4橋 (五礼橋(八木沢)、中ノ平橋(中ノ平)、花立橋(榎戸)、榎戸橋(榎戸))
- ・町道 調査中
- ・林道 139箇所 (榎戸橋取付部決壊、路体・側路・法面崩壊等)
- ・鉄道 会津宮下～小出駅間の上下線で終日運転を見合わせ
会津若松～会津宮下駅間の上下線の一部列車が運休
(8月7日4時9分配信)

叶津や八木沢地区では家屋が流され、町内各地で増水した川に家屋が浸水、また、熊倉や二軒在家地区では土石流に埋没しました。



▲一階部分が、濁流に飲み込まれた家屋(八木沢地区)



▲只見温泉保養センターも浸水(写真は大広間)



▲土石流に襲われた家屋(二軒在家地区)

家屋が流され、 土石流に埋まる



▲約50m流され、原形をとどめない家屋(八木沢地区)



▲一階の一部が流失した家屋(叶津地区)



▲流木が玄関の壁に突き刺さった家屋(叶津地区)

増水した川の濁流は、容赦なく生活に不可欠な道路や橋を崩壊させ、一部の集落を孤立化させました。



▲花立橋(楢戸地区)



▲堅盤橋(叶津地区)



▲五礼橋(八木沢地区)



▲万代橋(宮淵地区)



▲小川橋(小川地区)

道路が崩れ、 橋が落ちた



▲町道「御蔵前黒下4号線」(黒谷地区)



▲町道「小林塩ノ岐線」(塩ノ岐地区)



▲町道「関野土橋線」(小川地区)



▲国道252号塩沢スノーシェッド付近



▲町道「黒谷倉谷線」(黒谷地区)

福島県知事・ 政府調査団が視察

佐藤雄平知事は8月2日、町内の被害状況を視察しました。その後、季の郷湯ら里で政府調査団と合流、東祥三内閣府副大臣（防災担当）に対し、激甚災害への早期指定や被災自治体への財政支援などが盛り込まれた緊急要望を行いました。東副大臣ら政府調査団27名も只見地区の避難所を訪れ、被災者を激励しました。



▲要望書を読む佐藤知事(湯ら里)



▲八木沢地区を視察する佐藤知事(中央)



▲只見小避難所で避難者を激励する東副大臣(中央)



▲あいさつをする東副大臣(湯ら里)

災害ボランティアに感謝

8月1日、社会福祉活動センター「やまびこ」に災害ボランティアセンターが開設され、ボランティアを希望される方が毎日訪れています。受付をされた後、早速被災地に入り、家具などの運び出しや、泥や砂の撤去を手伝っていました。暑いなかありがとうございます。今後も、ボランティアのご協力が必要です。皆様よろしく申し上げます。



▲泥の撤去作業をする昭和村消防団員(八木沢地区)



▲災害ボランティアセンターの様子



▲本格料理を手渡すプロの料理人(只見小避難所)



▲家具の整理を手伝うハートネットふくしまの皆さん